

# 「家庭の日」

# 作文コンクール

子どもが心豊かに健やかに育つためには、家庭や家族のあり方が何より大切とされています。

青少年育成国民会議は、昭和41年から毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、親子のふれあいや家族の団らんを推奨しています。

青少年育成鳥取市民会議でも、この「家庭の日」

の普及促進を図るため、昭和57年から毎年、市内の小学校児童を対象に家庭や家族に関する作文のコンクールを行っています。今年度は、69点の応募がありました。

今回は、その中から最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

## 最優秀賞

### じつちゃんのはたけ

修立小学校三年

島田 康平



じつちゃんのはたけでとれたトマトをまるかじりするのと、じゅっとしるが出る。すっぱさとあまみが、いっぱいつまっている。だから、切つて食べるよりもまるかじりが一番いい。じつちゃんは、「はたけを作るのがすきだし、土をたがやしたり、ひりょうを入れたり、みずやりや草とりをしたりしてたいへんだけれど、みがなつた時は、とてもうれしい。また体を動かしたりすると、けんこうにいいから。」と、楽しそうに話してくれた。

のりゆう平が、あそんだり勉強したりするための家をたてることになったのです。ぼくはじつちゃんのことを心配でした。はたけがある所に、たてまします家がたつからです。はたけの所に家がたつと、じつちゃんが大切にしているはたけがなくなります。はたけがなくなると、じつちゃんの楽しみがなくなってしまう。そのことが心配でした。

もう、やさしいは作れないと思つたけれど、家のまわりに細長いすきまを見つけたじつちゃんは、トマト、ナス、キウウリのなえを、一本ずつうえました。「こうへい、トマトがなつたで。」と言うじつちゃんの声で、外に出てみました。すると、赤いみがたくさんなつていました。ぼくはさっそく、トマトにかぶりつきました。やっぱりその赤いトマトは、世界一おいしいと思つたトマトでした。

じつちゃんにこれからも、はたけ作りをつづけてほしいです。一本ずつの木であっても、そこでできた野さいを、じつちゃんといっしょにとることが、ぼくの楽しみでもあります。大きなはたけはなくなつたけれど、ぼくとじつちゃんの小さなはたけがあります。それがぼくと大すきなじつちゃんとの大切なたから物です。

いつもぼくたちのことを考えてくれる、じつちゃんが大好きです。今度は、ぼくがじつちゃんのはたけを作つてあげたいです。